

お盆法要

すべての回、法要時間は約35分~40分です

ご都合によって、対象外のお時間もお参り出来ます

8月15日(月)

10時より

11時半より

13時より

14時半より

新盆対象

新盆対象

一般のお盆対象

一般のお盆対象

持ち物

過去帳か位牌

お念珠

お経の本

読み上げ用紙

8月16日(火)

10時より

11時30分より

一般のお盆対象

一般のお盆対象



法徳寺では、毎年、有縁の方々合同で、新盆法要・お盆法要をお勤めしております。

阿弥陀経に『俱会一处~阿弥陀仏の浄土で、俱(とも)に一处で出会う』という言葉が出てまいります。また、浄土真宗の法名には、お釈迦様の『釋』が使われておりますのは、先立っていかれた、すべての方がお浄土に生まれていらっしゃるという意味です。当日は、平服でかまいません。

お盆法要で読み上げをご希望の方は、同封の用紙にご記入の上、受付に提出して下さい。

法徳寺だより

第99号 発行
浄土真宗本願寺派
法徳寺
厚木市岡田5-4-12
TEL 046-228-3962
住職 伊東英俊
法話 伊東英幸
編集 伊東祐子

浄土真宗のお盆の迎え方

浄土真宗は、いつものお飾りのままで大丈夫です。理由は、ご先祖はお盆の時期にだけ帰ってくるわけではないからです。いつも、帰ってきて下さっているという気持ちで、毎日お参りして下さい。



ぼくたちの
出番はね...



法徳寺仏教 壮年会研修旅行

今回は、富士山周辺を巡りました。壮年会の親睦が深まった旅でした。法徳寺では、壮年会のメンバーを募集しています。お寺の行事のお手伝い(念仏奉仕)を通して、人と人のご縁を広げ、報恩感謝の日々を過ごしませんか？

初参式

おめでとうございます!
鮎江展(さばえひろむ)くん



相模組 茨城研修旅行

先日、法徳寺が所属します、相模組のお寺のご門徒の皆様と茨城県の西念寺、大覚寺にお参りしました。親鸞聖人が、約800年前、20年の間、お暮しになった場所にお参りし、大変、感激しました。その後、袋田の滝、竜神大吊橋まで足を延ばしました。



ニコニコ法話会

8月は、お休みです。

次回は、9月2日(金)
午後1時30分~3時頃

お盆号の法話

現在、JR東海「そうだ京都、行こう」キャンペーンのCMに、西本願寺と東本願寺が採用されており。お父さんと小学生の男の子で、本願寺をお参りされる光景は、とてもいいですね。CMをご覧になった方が、西本願寺に行ってみようと思っただければ大変有難いと思います。

七百五十四回大遠忌法要



それにしても、今年の西本願寺周辺は、親鸞聖人750回大遠忌法要で、大変な人出でだそう。先日、団体参拝に行ってきたご住職の様子をお聞きしました。私が、「門信徒さんをお連れしての旅大だったでしょう?」とお聞きしたら、「確かに、大変でしたが、門徒さんがとても喜んでくれて、本当に、お参りしてよかったです!」と興奮してました。行くまでは、正直言って、それほど期待感は無かったのですが、実際に、行ってみると、日本全国からの沢山のお参りの方に、こんなに、浄土真宗のお仲間がいっぱいだったのかと感動されたようです。そして、法要の演出の素晴らしさにも目を見張るものがあったと感想を述べておられました。今も昔も、京都の本山にお参りするというのは、特別なものでございます。特に、今年は、五十年に一度の大法要なのです。

越後より関東へ

現在、私は、四十二歳です。親鸞聖人は、その歳、七年間過ごした越後から、家族を連れて、関東の常陸の国に移られました。京都で念仏が弾圧され、罪人として越後に流罪となつてから、四年後、罪は許されたのですが、京都に戻られた法然上人は、数ヵ月後、八十歳でお亡くなりになりました。師匠である法然上人のいらつしやらない京都に帰る意味はないとお考えになつたのでしょうか。関東の常陸の国、現在の茨城県には、頼るべき方がいらつしやつたと言われ、その方の招きで新天地での布教を志されるのです。

親鸞聖人像



私、先日、網代傘というものを買ってみました。これは、よく修行僧の方がかぶつておられる竹で編んだ頭にかぶる傘です。結構、いい値段がしました。

今年、法徳寺に念願でありました、親鸞聖人の銅像を建立いたしました。銅像を選ぶ際に、傘をかぶり、杖をお持ちの旅姿の親鸞聖人に致しました。考えてみると、そのお姿がどのお寺さんでももつともよく拝見します。また、親鸞聖人のご生前のお姿を描いた肖像画にも、聖人の前には、杖やわらじが描かれております。これは、親鸞聖人の布教のスタイルなのです。まったくの新しい土地、最初は、誰も、教えを聞きに訪ねてくるわけではなかったでしょう。親鸞聖人は、自ら出向いて布教をされたと思います。時には、田植えを手伝ったり、畑仕事を手伝い、休憩のときに、何気なく、人びとの悩みを聞き、聖人の人柄、人間性に打たれて、教えを聞くようになったと伝えられております。親鸞聖人は、寺院を建立されておりません、本堂で教えを語られるお姿よりも、旅姿でご苦労されたお姿が、聖人らしいお姿なのだと思います。その布教が実を結び、だんだんと信者が増えていったのです。その後、二十年の間、常陸の国に滞在し、いくつもの粗末な仮住まいである草庵に住みながら、布教を続けていかれました。

最も、親鸞さまは、浄土真宗という、宗派を立ち上げようという気はなかつたようです。法然さまから教えて頂いた、阿彌陀様の救いを、一人でも多くの方に伝えたいという一心であつたようです。御同朋、御同行と言つて、自分の上下などわけへだてない方でした。お金や地位、名譽などの執着は、まったくなく、お方でした、ただ、阿彌陀様に救われた喜びを伝えたくつたのです。

最高の人生

昔、「最高の人生の見つけ方」という映画を観たことがあります。内容を簡単に申しますと、二人の主人公は、今まで正反対とも思えるような生き方をしてきました。それが、同じ末期の癌、たまたま、同じ病院の病室で出会います。二人は、残された時間、最高の人生を見つけようとするのです。それから、二人は、残された時間を、今までやれなかつたことにチャレンジします。エベレストへの登山、スカイダイビング、レース場を貸切、レーシングカーを乗り回すなど、しかし、何をやっても満たされないので、結局、最高の人生とは、「自分の人生に喜びを見いだしたか、そして、他人の人生に喜びを与えることが出来たか」という結論になるのです。

親鸞聖人は、なぜ、こんな苦労されてまで布教をされたのでしょうか。最初は、なかなか教えに耳を傾けてくださらなかつたでしょう。しかし、殺されかけたこともあつたのです。しかし、聖人は、念仏の教えに出会つた方々の喜ぶ姿をみることで、自分の喜びであつたのだと思います。お釈迦様も、「人に優しくすることは、まさ

に自分にとって得なことはかりですよ」とおっしゃっています。

よく、ご法事をお勤めされた後、これで、両親も喜んでくれると思ひますというお言葉を聞きます。そのときの、喪主さまの安らいだいい笑顔を拝見すると、私もとても嬉しい気持ちになります。結局、亡き方の喜びが自分の喜びなのだと思います。

北原照久さん



世界的なおもちゃコレクターで有名な北原照久さんの自伝がこの前まで、神奈川新聞に連載されておりました。ちょうど、五木寛之さんの親鸞の連載と同じページに掲載されておりましたので、毎回、欠かさず拝見しておりました。

ある回、お母さんのことが書いてありました。『生前、自分のことを、常に応援してくれていた母、いつか、母親が亡くなるとどのくらい悲しいものだろうかと思つていたが、いざ、亡くなつたときには、意外にも冷静でいられた。でも、実際は、予定を次々とこなす仕事の忙しさに紛らわしていただけかもしれない。ある日、大阪に講演へ行った帰りだった。いつも、母に送つていた土産物屋の前を通つたとき、突然涙が出た。もう送つてあげられる母はいないのだという思いからだろう。人が見ているのもお構いなしだった。母にもうプレゼントは贈れないが、これからは感謝の気持ちで忘れずに墓参りを続けていきたい。』北原さんは、お母さんの喜ぶ顔がみたくて、プレゼントを贈つていたのでしよう。その笑顔を見ると、自分も元気が出たのでしよう。

親鸞聖人も、関東の人びとの、喜ぶ顔がみたくて、布教を続けていかれたのではないのでしょうか。そして、それは、自らの喜びでもあつたのです。

念仏に身を任せる

皆様、これからも、お念仏に身を任せてください、南無阿彌陀仏は、仏様の呼び声です、私の口より称える念仏ですが、その中は、仏様です。阿彌陀様や亡き方が、南無阿彌陀仏となつて、いつも、私たちに「あなたの側をいつも離れず護っていますよ」と呼びかけてくださっているのです。その愛情を疑つてはいけません。念仏は、「迷わないで下さい、成仏してください」という意味ではなく、私の心持ちは、「ありがとございませう、いつも、心配かけてごめんね」と称えるものです。

(法話 副住職 伊東英幸)